第6講座 古文

1 次の古文と現代語訳を読んで、あとの問いに答えなさい。

①いづくにもあれ、しばし旅立ちたるこそ、目覚むる心ちすれ。そのわたり、ここかしこ見歩き、②ゐなかびたる所、山里などは、いと目なれぬことのみぞ多かる。

都へ便求めて③文やり、「そのこと、かのことかの便宜に忘るな」など言ひやりたるこそ④をかしけれ。

⑤さやうの所にてこそ、万に心づかひせられ、持てる調度まで、よきはよく、能ある人、⑥かたちよき人も、常よりはをかしと見ゆれ。

寺、社などに忍びて籠りたるも、をかし。

（『徒然草』より第十五段）

（現代語訳）

どこでもよい、しばらくよそで泊まったりするのこそ、目が覚めるような□心地がするものだ。

そのあたり、ここあそこを見て回り、⑦ひなびたところ、山里などは、たいそう見なれないことが多くあるものだ。

都へつてをさがしては手紙を送り、「そのこと、あのことあのついでに忘れないように」などと言い送るのは趣がある。

そんなところでこそ、万事につけ自然に気づかいされ、持っている道具類まで、上等な物は上等に、技芸の才能のある人、器量のいい人も、ふだんよりは見事だと感じられる。

寺や神社などに人目を避けて泊まって祈念するのも、趣がある。

問一 「徒然草」の作者を次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 清少納言　イ 吉田兼好

ウ 紫式部　エ 松尾芭蕉

（　　）

問二 ――線①「いづく」、②「ゐなかびたる」、⑤「さやう」の読み方を現代かなづかいのひらがなで書きなさい。

①（　　）　②（　　）

⑤（　　）

問三 ――線③「文」、④「をかしけれ」、⑥「かたち」の意味を現代語訳の中から書き抜きなさい。

③（　　）　④（　　）

⑥（　　）

問四 □にあてはまる言葉として最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 恥ずかしい　イ 退屈な

ウ おそろしい　エ 新鮮な

（　　）

問五 ――線⑦「ひなびたところ、山里など」とありますが、筆者はふだんはどこにいるのですか。現代語訳の中から書き抜きなさい。

（　　）

2 次の古文と現代語訳を読んで、あとの問いに答えなさい。

これも今は昔、南京の永超僧都は、魚なきかぎりは、時、非時もすべて食はざりける人なり。公請つとめて、在京のあひだ、ひさしくなりて、魚を食はで、くづほれてくだるあひだ、奈島の丈六堂の辺にて、昼破子食ふに、弟子一人、近辺の在家にて、魚をこひて①すすめたりけり。件の魚のぬし、後には②夢に見るやう、おそろしげなる物ども、その辺の在家をしるしけるに、我家をしるしのぞきければ、たづぬる処に、使のいはく、

「永超僧都に魚たてまつる所也。さて、しるしのぞく」といふ。

その年、この村の在家、ことごとく、えやみをして、死ぬるものおほかり。此魚のぬしが家、ただ一宇、その事をまぬかる。よりて僧都のもとへ参りむかひて、このよしを申。僧都、此よしを聞て、かづけ物一重、たびてぞかへされける。

（『宇治拾遺物語』より巻四の十五）

（現代語訳）

これも［　　］、南の京（奈良）の永超僧都は、魚がない限りは、午前の食事も、午後の食事もすべて食べなかった人である。朝廷の法会の講師を務めて京都にいる期間が長くなって、魚を食べないで衰弱して戻る途中、奈島の丈六堂のあたりで、昼食の弁当を食べるときに、弟子の一人が、近くにある家で、魚を求め勧めた。

その魚の主がのちに夢に見ることには、おそろしげな者どもが、そのあたりの家に印をつけたのに、自分の家に印をつけなかったので、尋ねたところ、使いが言うことには、

「永超僧都に魚を献上したところである。そういうわけで、印をつけない」と言う。

その年、この村の家、ことごとく疫病にかかって、死ぬ者が多かった。

この魚の主の家は、ただ一軒③そのことをまぬがれた。それで僧都のもとに参上して、この事情を申し上げた。僧都はそのいきさつを聞いて、ほうびとしての衣類を一そろえお与えになって、帰された。

問一 ――線①「すすめたりけり」とありますが、誰に何を勧めたのですか。次の［　］にあてはまる言葉を文中から書き抜きなさい。

［　　］に、献上された［　　］を勧めた。

問二 ――線②「夢に見るやう」とありますが、夢に見た内容が書かれているのはどこまでですか。古文中から終わりの五字を書き抜きなさい。

［　　］

問三 ［　　］にあてはまる言葉を書きなさい。

（　　）

問四 ――線③「そのこと」とは、どんなことですか。

（　　）

問五 この文章の内容に合うものを次のうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 永超僧都に魚を献上した主は、僧都を悪い者どもから守った。

イ 永超僧都に魚を献上した主は、僧都に代償を求めた。

ウ 永超僧都に魚を献上した家には、大変よいことが起きた。

エ 永超僧都に魚を献上した家には、僧都のところから使いがきた。

（　　）

練習問題

1 次の古文を読んで、あとの問いに答えなさい。

〔かぐや姫のうわさを聞いて、多くの男が求婚にやってきたが、姿を見ることもできない。〕

人の物ともせぬ所にまとひありけども、なにの験あるべくも見えず。家の人どもに物をだに言はんとて、言ひかかれども、a ことともせず。あたりをはなれぬ君達、夜をあかし、日をくらす、多かり。おろかなる人は、「用なきありきは、よしなかりけり」とて、来ず成にけり。

其中に、A なほ言ひけるは、色好みといはるるかぎり五人、思ひやむ時なく、夜昼来ける、その名ども、石作の御子・くらもちの皇子・右大臣阿倍のみむらじ・大納言大伴の御行・中納言石上の麻呂足、此人々なりけり。

世中に多かる人を①だに、すこしもかたちよしと聞きては、見まほしうする人どもなりければ、かぐや姫を見まほしうて、B 物もくはず思ひつつ、かの家に行きて、たたずみありきけれど、②かひあるべくもあらず。文を書きてやれども、b 返事もせず。わび歌など書きておこすれども、かひなしと思へど、③霜月・④師走の降りこほり、⑤水無月の照りはたたくにも、障らず来たり。

この人々、ある時は、竹取をよび出て、

「娘を、吾に賜べ」

とふし拝み、手をすりのたまへど、C

「をのが生さぬ子なれば、心にも従はずなんある」

d と言ひて、⑥月日過ぐす。かかれば、⑦この人々、家にかへりて、物を思ひ、祈りをし、願を立つ。思、やむべくもあらず。「さりとも、つひに⑧をとこ婚はせざらむやは」と思ひて、頼みをかけたり。あながちに、心ざしを見えありく。

（『竹取物語』）

＊1まとひありけども＝さまよい歩いたが。
＊2君達＝貴公子たち。
＊3おろかなる人＝あまり熱心でない人たち。
＊4用なきありきは、よしなかりけり＝無用の歩き回りは無駄だった。
＊5言ひけるは＝言い寄ったのは。
＊6色好み＝恋の道の達人。
＊7見まほしうする＝妻にしたいと思う。
＊8たたずみありきけれど＝あちこち場所を変えて立ちつくすが。
＊9わび歌＝思いの苦しさを訴える歌。
＊10降りこほり＝雪が降り氷がはるときにも。
＊11照りはたたくにも＝太陽が照りつけ雷が鳴りひらめくのにも。
＊12賜べ＝ください。
＊13心にも従はずなんある＝私の意見にも従わないでいるのです。
＊14つひに＝最後まで。
＊15婚はせざらむやは＝結婚させないことがあろうか。
＊16あながちに＝無理算段をして。
＊17心ざしを見えありく＝思いの深さを見せつけるように歩き回る。

問一 〰〰線A「なほ言ひけるは」、B「見まほしうて」、C「のたまへど」の読み方を現代かなづかいのひらがなで書きなさい。

A（　　）

B（　　）

C（　　）

問二　═線a「ことともせず」、b「返事もせず」、c「来たり」、d「言ひて」の動作主として最も適当なものを次のうちから選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア　求婚者たち　　**イ**　竹取の家の人たち

ウ　竹取　　**エ**　かぐや姫

a（　　）　b（　　）　c（　　）　d（　　）

問三　──線①「だに」は、軽いものを挙げて、より重いものを類推させる言葉ですが、ここで(1)軽いもの、(2)重いものとは、それぞれ何ですか。現代語で書きなさい。

(1)（　　）

(2)（　　）

問四　──線②「かひ」と同じことを意味する言葉をここより前の文中から一字で探し、書き抜きなさい。（　　）

問五　──線③「霜月」、④「師走」、⑤「水無月」は、それぞれ陰暦の何月ですか。

③（　　）　④（　　）　⑤（　　）

問六　この古文を現代語訳する際に、──線⑥「月日」、⑦「この人々」、⑧「をとこ」のあとに助詞を補うとわかりやすくなります。それぞれ適当なひらがな一字で答えなさい。

⑥（　　）　⑦（　　）　⑧（　　）

問七　──線⑨「あながちに、心ざしを見えありく」とありますが、これは何をしているのですか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　腹を立てて、怒りをぶつけている。

イ　望みを捨てないで、自分を売り込んでいる。

ウ　思いを断ち切って、別れのあいさつをしている。

エ　苦しみが高じて、自分を辱めようとしている。（　　）

問八　この文章の内容と合うものを次のうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア　竹取は、貴公子たちの思いがどの程度のものであるか、確かめようとした。

イ　かぐや姫は、家の人たちを通じて、貴公子たちの求婚をすべて断った。

ウ　貴公子たちはなかなかかぐや姫に会えず、代表者五人を送り込むことにした。

エ　貴公子たちはさまざまな手を使ってかぐや姫に近づこうとしたが、だれも成功しなかった。（　　）